

佐賀県教育センター 所報

No.61

もくじ

○ 卷頭言「三つの心」	1
○ 平成4年度研修事業の実績と平成5年度の構想	2
○ 指導のチェックポイント「中学校技術」	4
○ 指導のチェックポイント「高等学校商業」	6
○ 平成5年3月発行「研究紀要第17集の概要」	8
○ 長期研修生雑感「センター研修182日」	10
○ 教育相談Q&A「再登校へ向けて!!」	12

卷頭言

三つの心

佐賀県教育センター 研修三課長 江藤周二



今年の新年は、穏やかな天候の幕開けで始まった。1年の計は元旦にありということと、目標を立てたこともあった。

学校は、4月1日に1年が始まる。職務に関するることは、この日を区切りとして、1年の計画を立てる。教育センターに勤務することになったときは、「チャレンジ精神」を目標に掲げた。

学校に勤めていたときも、いくつかの目標を立てて努力したことがある。その中から①「初心」②「向上心」③「寛容の心」にまとめて述べる。

第1の「初心」とは、教職に就いたとき、何か事を始めたときの動機・意欲をいつまでも持つことである。誰でも新採時は、謙虚な気持ちで、前向きに仕事を引き受け、指導を受けながら責任を果たした。

経験と慣れから初心を忘がちな昨今ではないだろうか。

第2の「向上心」とは、常に学ぶ心を持ち続けることである。仕事を求め、仕事があることに感謝する。

教える教科に関する専門的な知識を深めることはもちろん指導法を工夫し、自分自

身の人間性を磨き高める。情報化・国際化・高齢化社会に対応していくためには、アンテナを高くして情報意識の感度を上げ、新しい知識を吸収する姿勢が必要である。

学ぶ人間こそ人を教える資格があり、その後ろ姿に子供はついてくる。

第3の「寛容の心」とは、心が広く思いやりがあることである。教師は、話す・教えることばかりに夢中になって、聴き入れる態度に欠けるところがある。子供の言話をとがめず、温かい心で受け入れ、理解することが大切だ。

プロ野球のコーチに、選手の短所の部分はそのままにして、長所を伸ばす指導をする人がいる。そのように指導することによって、短所が目立たなくなり、一流の選手に育つという。

教育は人なりと言われ、教師の資質向上が求められている。保護者の信頼に応え、専門職にふさわしい力量形成を図らなければならない。

やがて異動の時期になる。異動は研修なりと言われる。「初心・向上心・寛容の心」が参考になれば幸いである。

平成4年度研修事業(短期研修講座)の実績と平成5年度の構想

1 平成4年度の実績

(1) 短期研修講座実施にあたっての基本的な考え方

- ・教職員の資質・能力の向上に役立つために、計画的かつ効果的な研修を行う。
- ・研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の課題や社会の変化に対応した実践的研修を行う。
- ・研修方法に創意工夫を加え、受講者が研修に意欲的に参加できるように努める。

これらを柱として、124本の講座を実施した。受講者総数は2736名で、上記3点の目標をほぼ達成できた。

(2) 本年度改善された点について

時代の要請と学習指導要領の本格実施に伴って、各講座内容や講座を厳選し現場実践に即応する講座を開催した。

① 情報化に対応するために

- ・全ての校種を対象にしたパソコン言語1班～3班の3本の講座を新設した。LogoやBASIC、OSの実践的な利用法について研修が実施された。
- ・教育現場の要望に応えて教育機器講座を復活し、教育機器の取扱いや操作等について研修を実施した。

② 学習指導要領の本格実施に伴って

小学校での新学習指導要領の実施に伴い、各教科・道徳等の講座内容を中心に改訂点を盛り込み、講座の内容・講師を精選した。

国語科講座では、「豊かな言語感覚を育てる言語指導」というテーマのもとに小・中学校合同の一部公開講座を実施した。定員50名に対して250名もの受講があった。

③ 「性」についての理解を深めるために「人間についての性」について理解を深め、児童生徒への対応や指導の在り方を考えるために、教育相談症例(性を考える)講座を実施した。65名ほどの受講があり、受講者にも好評であった。

(3) 短期研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校種	講座数	定員	受講者数
教科	小学校	28	730	802
	中学校	18	324	283
	高等学校	17	288	237
	合同(小・中・高)	3	72	46
教育経営	小学校	8	240	198
	中学校	5	140	101
	高等学校	5	155	196
	合同(小・中・高)	3	55	35
	幼稚園	1	80	55
教育相談	合同(小・中・高)	11	330	437
	小学校	3	72	69
情報処理	中学校	3	72	52
	高等学校	11	98	77
	合同(小・中・高)	8	152	148
総合		124	2,808	2,736

(4) 受講後のアンケート結果から

<教育実践に役立った講座内容>

① 原理・理論的なもの

- ・授業の組み立て、問題解決学習の意義と進め方
- ・新学習指導要領の趣旨やそれに伴なう指導の在り方
- ・校務運営上の対処の仕方や構え、広い視野
- ・問題児童生徒に対する理解と具体的な対応の仕方

② 実践的なもの

- ・授業参観及び授業研究会
- ・現場教師による具体的な実践発表
- ・教材、教具、資料等の作成方法とその効果的な活用方法

③ 実技・演習的なもの

- ・学習指導案の作成と模擬授業
- ・CAIソフトの作成とパソコンの基礎技能習得
- ・理科の実験観察・教育法規演習
- ・コミュニケーション能力育成の演習

④ 情報交換的なもの

- ・いろいろな校種の先生との意見交換
- ・教育実践上の諸問題についての意見や情報の交換

2 平成5年度の構想

来年度は、次の3つの観点より8本の講座を新設する。

(1) 時代の流れに即応して

国際理解教育 一定員20名

国際理解教育の指導理念とその指導法について研修を深め、国際的視野を広め指導力の向上を図る。

<内容>・国際理解教育のねらいと指導法・教科等における国際理解教育・アジア諸国の理解

環境教育 一定員24名

学校における環境教育の意義と役割を理解し、環境教育の進め方について研修を行う。

<内容>・環境教育の進め方・環境教育の実践発表・自然教室(バードウォッチング)

パソコンOS 一定員10名

パソコンのオペレーティングシステムに関する基礎的な知識と技能を習得する。

<内容>・パソコンOSの基本的な操作方法・バッチ処理の基本・ハードディスクの扱い方の基本

(2) 学校の要請に答えて

校内研究 一定員25名

校内研究の意義やその手順と方法及び校内研究推進上の諸問題解決の方途について研修を行う。

<内容>・校内研究の意義と方法
・授業研究の進め方・校内研究推進上の問題点

(3) 新学習指導要領に即応して

中学校家庭科 一定員20名

「家庭生活」「食物」の領域における学習指導の在り方について研修を深め指導力の向上を図る。

<内容>・家庭生活領域の学習指導の実際・食物領域の学習の在り方、指導計画の作成

高等学校地歴科(地理) 一定員10名

地域・学校及び生徒の実態に即した教科指導の在り方を探り、生徒の主体性や意欲を駆り立てる授業を模索する。

<内容>・新学習指導要領に即した年間指導案の作成・人間と環境について・生徒の実態に即し主体性や意欲を駆り立てる授業への試み

高等学校地歴科(世界史) 一定員10名

近現代史を重視した新設科目「世界史A」における指導内容の精選・重点化を考える。

<内容>・新学習指導要領に即した年間指導案の作成・激動する社会主義国のゆくえを探る・柔軟な歴史的思考力とは何か。

高等学校公民科(現代社会) 一定員10名

人間としての在り方生き方について自ら考える力を育てる学習について探求する。

<内容>・生涯学習における自己教育力
・高齢化社会における福祉とは何か
・人間としての在り方生き方に視点をおいた学習指導の実際

平成5年度 短期研修講座(校種別概要)

校種	講座数	受講定員
幼稚園	1	80
小学校	40	1,076
中学校	26	521
高等学校	33	524
合同(幼・小・中・高・特)	25	633
計	125	2,834

3 おわりに

新学習指導要領への対応を、より円滑に行えるよう当教育センターでは、研修講座の一部改廃とその内容の充実を検討してきた。

よりよい研修講座を設定し、児童生徒の調和のとれた成長・発達のために、役立ちたい。

指導のチェックポイント・中学校技術

情報活用能力を育てる「情報基礎」をめざして ～プログラムの作成を中心に～

佐賀県教育センター 研究員 池田直人



はじめに

今回の学習指導要領の改訂で、中学校技術・家庭科に「情報基礎」領域が新設された。

その目標をみると「コンピュータの操作等を通して、その役割と機能について理解させ、情報を適切に活用する基礎的な能力を養う。」とある。

すなわち、基礎的な情報活用能力を養うことが最終目的となっている。

そこで、操作活動を通して情報活用能力の育成をめざした指導計画の試案を示し、プログラムの作成場面を中心に考えてみたい。

1 指導方法について

(1) 「情報活用能力」については、臨時教育審議会において、情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質と定義している。したがって、指導方法を考えていくうえで生徒が主体的に学習課題に取り組む指導方法を取り入れなければならない。このため、生徒が課題を把握し追究して学習を進めていく問題解決型の学習が有効であると思われる。

(2) 上記の「情報基礎」領域の目標から、まず、コンピュータの操作をし、その体験から内容の理解をはかり課題を解決していくなかで情報活用能力を育成する指導方法を取り入れることが必要である。

(3) アンケート等の調査を行い領域内容についての知識や技能などの先行経験を把握し、生徒の実態をつかみ指導に生かす必要がある。

2 指導計画について

上記の考えを基本にして、また、次のことを考慮に入れ指導計画を作成した。

(1) 指導順序はコンピュータの操作の流れと指導事項の関連を検討し決定する。

(2) コンピュータの処理内容を【言語】【图形】【計算】【検索】【通信】【制御】に分けて考え、できるだけ多く体験させたいと思

い下記のような配慮をした。

- ・項目2(指導計画参照)の前半でワープロソフトを使用してコンピュータの基本操作を学習するとともに言語処理を指導したい。

「情報基礎」指導計画(30時間)

項目	指導事項	プログラムの作成場面
1 情報と生活 [0.5時間]	・日常生活 のコンピュータ	
2 コンピュータの操作と仕組み [13.0時間]	・コンピュータと周辺機器の操作 [ワープロソフト] ※1 ・コンピュータの情報処理の特徴 [BASIC] ・ハードウェアとソフトウェア [0.5] ※2	プログラム作成をはじめて最初の構成環境
3 プリケーションソフトの利用 [3.0時間]	・データベースソフトを利用した 情報処理 [データベースソフト] ※3	
4 簡単なグラフの作成 [7.5時間]	・BASICによる グラフィックスソフトの作成 [BASIC] ※4	プログラム
5 コンピュータの活用 [5.0時間]	・コンピュータを利用した 情報の作成 ↓ ワードプロセッサーの 操作による情報 の作成 ↓ Bの Aの Sの Iの Cの 作 に成 よ る ト成 よ る	Bの Aの Sの Iの Cの 作 に成 よ る ト成 よ る
6 社会と情報 [1.0時間]	・情報化社会でのコンピュータの役割	※5

*指導やコンピュータの操作の歴史(数学、科学)で使うので併くふねる。
*初期、中期回路は機械(電気、機械)で使うこととし、ここでは省いた。
*機械の構成(モーター)についても指導課程全体で使うが、後期回路で主に扱い、後部時間3.4で扱う。
*内は別用ソフトウェア、ワープロとデータベースは指導課程のソフトが用意しているので要注意。いい場合は、静音とフロントナビゲーションを併用してほしい。

・項目2の後半ではBASICを使用したコンピュータの情報処理の特徴をつかませるとともに、簡単な計算プログラムを作成させたい。

・項目3では検索処理を、項目4では图形処理を学習させたい。

3 指導の実際(プログラムの作成場面を中心)

プログラムの作成では単なる理解中心の言語学習に終わる事なく、情報活用能力を育てるために以下のような配慮を行いたい。

プログラム作成場面の構成と問題解決型学習

プログラム作成はコンピュータに行わせる仕事の実現であり、その作業はハードウェアを意識させコンピュータを知る機会を与える。また、情報を活用するための考え方を習得する場でもあると考え、次の構成を考えた。

・指導計画の項目1の中にプログラム①として作成場面を位置付けた、ここでは、キーボードからの数値などの入力、演算、画面への出力などを経験させるとともに、四則計算プログラムの一例としてベルマークの点数計算を課題として与え、課題の追究をして完成させる。発展として他にどりんなものが考えられるかを述べさせるという問題解決型の学習を取り入れた。しかし、問題解決型の学習の学び方を指導する必要があり、プログラム①では教師主導で一通りの学習の流れを体験させることにした。

・項目4のプログラム②では、反復処理の課題を使い、課題追究の過程を中心において生徒が主体的に学習する場を設定した。

・項目5のプログラム③では課題把握の過程を大切にして、問題解決型学習の全過程を生徒の主体性に任せて、教師は助言者に回る設定を考えた。

問題解決型学習を成立させるための手立て

・課題把握、課題追究をしていくためにはその材料としてプログラム言語とその記述

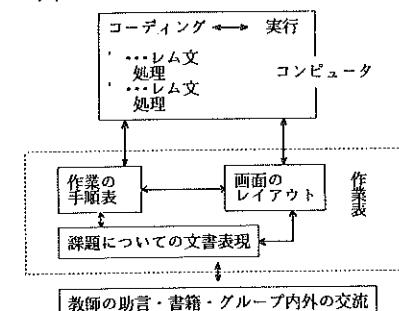
図1 自己評価票の活用

学習	一斉指導など。
自己評価	どの点が悪いのか考えさせる。
補充	補充を個別指導している間、他の発展課題に取り組む。
発展	学習の仕方を反省し、次の意欲を持つ。
自己評価	

を知る必要がある。このため、プログラム①と②においては図1のような形で自己評価票を利用する事が有効であろう。また、この票の利用により、自分の進度を知り自分にもコンピュータが使えるという成就感がもて意欲の持続がなされると思う。

・プログラム③の学習で、図2のような作業の流れを考えるとき、課題を追究していくためにはどうしても作業の手順表とコーティングの間を行き来する必要がある。このとき、学習の早い段階からレム文(注釈文)を入れる練習をしておくと手順表の作成が容易になる。

図2 プログラム作成の流れ



・図2の作業を進めていくためには、作品の物語(ストーリー)を考えてプログラムの作成を進めて行くように指示することが大切である、このことによって課題意識の持続がなされると思われる。

・指導計画に示した※1から※6の時点下記の2つの質問を繰り返し行うこととした。

- 1 コンピュータを使ってどんなことができる。
- 2 コンピュータを使ってどんなことをしたいですか。

これは、まず第1に生徒が項目5において課題を把握し設定するための手助けとなると考えられる。第2に情報活用能力の広がりや深まりを評価する観点から取り入れた。おわりに

義務教育におけるコンピュータを取り入れた情報教育は始まったばかりでこれからますます進展していくと考えられる。ここで示した指導計画も生徒の実態が変わるとみなおさなければならない点が多い。「情報基礎」は新しい領域である、その中で生徒の情報活用能力をいかに育てるべきかをともに考えていきたいものである。

指導のチェックポイント・高等学校商業

商業高校における情報処理教育について

～まず第一歩は本質をとらえること～

佐賀県教育センター 研究員 山崎昭典

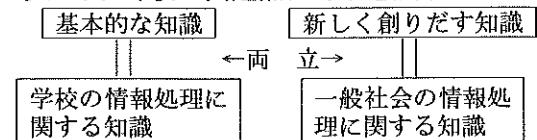


はじめに

情報処理教育について、今年度の高校生によるセンター実習意識調査によると、今後学びたい順位は、①先端、先進と名のつくもの②最新、新～と名のつくものの③基礎・基本的なもの④将来・21世紀について⑤専門的分野を深く学びたいなどがある。

また、専門的分野を深く学びたいという順位は、①通信②情報③環境④ソフトウェア⑤コンピュータ⑥半導体⑦ネットワークとなっている。

人は知識を求める動物であり、「知識は力なり」と言われる。下図のように学校教育が両立を目指し、よりよい方向に向かうため、今後の問題点に考察を試みた。



[考察1] ヤヌス的に創造力を培う必要性

ヤヌス（ローマの二面顔を持った神）的に2つの視点からぬかりなく、物事の表裏をつきつめる。たとえば、個と全体という見方である。人は大変ヤヌス的の素質を持っている、知（マインド）と情（ハート）という2つを持って生まれてきているし、この二面には常に葛藤があるといわれる。

物事の二面性（次の①～⑤）を相対するところに活力（創造力）がある。①今までにとらわれない②教師にたよりすぎない③新しい知識を得て無用なものは捨てる④抵抗に対して闘う⑤いつまでも若い感性を失わないなど、自分で考える工夫が大切だ。

[考察2] 文部省でソフトウェア予算化

昨年度、「学校教育における情報教育の実態調査に関する報告書」を発表した。

その中に、コンピュータの施設、ハードウェアやソフトウェアに関すること、研修

に関することなどがある。

今後は、使いやすいソフトを購入する方法を考えていただきたい。また、下表に示すとおり、小、中学校での設置台数が遅れており、商業高校での本格的な情報処理教育は、ここ数年遅れそうである。

(1) コンピュータの設置状況(平成4年3月31日現在)

学校数	設置学校	設置率	設置台数	平均設置台数	1台当たりの生徒数	LANの設置校	
小学校	24,267	12,108	50.2	46,068	3.8	190	6.3%
中学校	10,551	9,037	86.1	116,674	12.3	40	28.3%
高等学校	4,167	4,144	99.4	168,441	40.6	22	37.2%
特殊教育諸学校	887	727	82.1	3,888	5.3	22	2.1%
合計	39,872	26,147	65.6	335,071	12.8	52	18.7%

(2) ソフトウェアの整備状況

	平均保有本数(本/校)	平均種類数(種/校)	市販ソフト(%)
小学校	43	10	76
中学校	124	20	86
高等学校	143	26	80
特殊教育諸学校	27	15	66

[考察3] 商業高校の情報処理教育の実績

本県の場合推進校として、昭和47年にS校に情報処理科が設置され、今年度までにK校（H元）、I校（H元）、K1校（H3）にも情報処理科が設置された。汎用機の導入状況は、昭和63年度から全校の更新を行い、昨年度で終了した。ワードプロセッサと共に、1クラス1人1台の整備を終わった。CAI教育でもパソコン25台が設置され、「総合実践」でも全校に、パソコン、ファクシミリ等が導入されている。また、下記の実績表のとおり、各校における意欲的な、検定への取り組みがなされており、着実に実績が上がっている。

名称	主催者	等級	昭.63	H.元	H.2	H.3	H.4
情報処理技術者	通産省	1種	—	—	—	2名	5名
"	"	2種	2名	4名	10名	38名	42名

[考察4] 使いやすいソフトウェアの導入

文部省の本年度予算に組み込まれた、ソフトウェアについては、「产学研」が密に協力しあって開発に取り組んで欲しい。

また、ソフトを購入する際には、その利用方法は少し不便でも、十分に検討した上で、より効果の上がるものを、ローコストで、多種類そろえて欲しい。基本的なものから、応用的なものへの対応が望ましい。

1人1台の整備が終わって、ソフト不足の中にも何とか実績を上げられるのは、先生方が生徒と一緒にになって、昼夜を問わず努力されているたまものである。

[考察5] 商業高校における情報処理教育

(1) 教科指導の方向性

- ① 基礎・基本力と創造力育成の両立。
- ② 商業科の機能拡大を図ること
 - ① データ処理（LAN、ファクシミリ、パソコン通信など）
 - ② 簿記・会計実践（会社、商店の営業取引、簿記、会計処理、経営分析など）
 - ③ プログラミング（フォートラン、コボル、MS-DOSからC言語へ移行）
 - ④ ビジネス・シミュレーション（問題解決の道具、ビジネス・マナーなど）
 - ⑤ 情報処理入門（ロータス、ワープロ、マルチプラン、Dベースなど）
 - ⑥ データの分析（DBの蓄積と検索・分析、意思決定、DBの使い方など）
 - ⑦ オンライン・総合実践（学校間取引、模擬体験、ソフトの有効利用など）
- ③ 経営情報、情報管理、プログラミング、情報処理、簿記、会計、課題研究などの科目や、学科への関連性など、今後はパッケージシステムの利用が大切であり、ノンプログラミングによるツール利用が増していく。また、ライトサイジングにより、手造りのプログラムは、高度な社会的ニーズに応えるためにも、C言語への移行が望まれている。このように機能拡大を図っていくために、次の教職員研修を考えた。

[考察6] 情報処理教育センター教職員研修

(1) 今後考えられる研修

- ① 専門教師の資質向上を図る。
- ② 指導法など「情報学」講座の充実。
- ③ ネットワーク化による、データベース

利用の実現。

- ④ ローコストによる多種ソフトの利用。
- ⑤ 年間フレックス研修の実現。
- ⑥ 内容の幅を広げグレードアップ。
- ⑦ 文部省の放送教育開発センターと通信衛星で結び民間とのネットワーク化。

(2) リフレッシュ研修について
社会人の再教育という意味があり、初々しさを保つという狙いもある。

この研修は、マインドを磨くことから本質をとらえる第一歩が始まる。

芸道=能、歌舞伎、日本舞踊、邦楽の修行では、「修」「破」「離」という三つの段階があるとされている。

名人は①修②破③離の段階を経て、やっと神技の域に達するといわれる。

ここまでくるには、基礎・基本を何回くり返してもあきない苦労がある。うまくいく時と、そうでない時があれば、また、振り出しに戻るしかない。その内に、厚い壁を破り抜ける時がくる。苦しみ抜いた努力があるからこそ、光を見る時の素晴らしさは、たとえようもないものである。

情報処理教育の場合も、①まず先人の考え方（教科書）をマスターすることであり、ラーニング（覚える）よりもスタディ（考察）に力を入れること。②次はテーマを決めて研究する段階、テーマ決定が極めて下手であり、一応の研究成果を上げてから、文献と照合すべきものである。③最後は考え抜くこと。追い込まれた時にひらめくもの、「もうこれでいい」と自己満足する人は、もうこれ以上のびない。

情報を処理するのはコンピュータであっても、人間の記憶力、発想力、そして判断力は、芸道の三つの段階と同じである。

おわりに

高度情報化社会が、今後ますます身近になっていく中で、商業高校がよりよい方向に向かうため6つの考察を試みた。本質では基本（修）、応用（破）、実践（離）という段階をいかにして、レベルアップしていくかである。考察内容にいくつかの問題点を残してしまったが、これが本物だと重要なと分かるまで、お互いに研究していきたい。

平成5年3月発行

研究紀要第17集の概要

教育基礎調査

児童・生徒の学び方に関する調査研究
～自己教育力の一要素である
「学び方」の育成の手がかりを求めて～

本県の子供の学び方の実態を調査した。その結果、本県の子供は、学び方は判かつてはいるが、基本的学習習慣と学習方法の習得の実践が弱いことが分かった。学び方を育成するには、教師は子供を正しく理解し、小学校はもちろん、中学、高校でも具体的な場面に即して指導をする必要がある。

国際理解教育

国際的視野をもった人間性の育成に関する研究（2年次）

本研究は、各学校における国際理解教育の進め方を教育実践を通して検討したものである。実践した教科・領域は、小学校学級活動、中学校道徳、高等学校理科化学である。今回の研究の特徴は、国際理解教育を進めるに当たって、必ずしも外国人の人を登場させなくても実施できる授業の方法を探ったことである。

小学校国語

短作文指導における意欲喚起・技能定着に関する研究

表現意欲の喚起・技能の定着は、作文指導では大切である。また、計画的・継続的指導が重要である。本研究では、各学年の単元テーマを設定し、子どもの興味・関心実態に応じた題材を設定した短作文指導研究に取り組んだ。その結果、計画された短作文指導は、意欲の喚起・技能の定着のみならず、言語生活を楽しむ活動に展開した。

小学校社会

日本と外国とのかかわりについて、共感的理解を深める指導に関する研究

共感的理解を深めるために、歴史学習と国際理解に関する学習において、その指導の在り方を探ってみた。実践にあたっては、外国を身近にとらえさせ、共感的理解にまで高めさせることを主眼に、人物との対話

学習という手立てを試みた。内容としては4つの対話学習を取り入れた実践事例に考察を加えたものである。

小学校図画工作

小学校図画工作科鑑賞指導の展開と工夫
～高学年の独立した鑑賞指導の一方策～

これまでの鑑賞指導の反省をもとに、鑑賞指導に対する実態を把握することにより、まず、独立した鑑賞指導を、年間指導計画に位置付けた。さらに、児童が意欲的に取り組むための一方策として、地域性を生かした身近な題材を取り上げ、児童の見方・感じ方を大切にした、高学年における独立した鑑賞指導について考察した。

小学校CAI

小学校におけるパソコンの教育利用について
～教育用ソフトウェアの利用事例集計プログラムの開発～

教育用ソフトウェアの利用事例の回収方法や集計方法を検討し、教師がソフトウェアを選定する場合、その選定が容易にできるように利用事例集計プログラムを開発した。本プログラムの利用により、教師は授業に合致するソフトウェアをそのままに簡単に選定できるようになる。

中学校国語

音声言語指導の展開と工夫のために

中学校国語科担当教師と中学校生徒を対象に、音声言語に関する調査を実施した。その結果、特に、生徒の授業場面における音声言語活動の沈滞、教師の意図的・計画的指導の不足等の問題が改めて浮き彫りにされた。そこで、現実の実態に即して、これから日常的、計画的な音声言語指導の展開と工夫のための基本的な考え方・在り方について考察した。

中学校数学

数学を活用する態度を育てる指導法の研究
～課題学習的な授業展開を通して～

本研究は日頃の各領域の指導において、生徒自身に課題を見いだせたり、課題を

作らせたりし、その課題を自分で解決させるという課題学習的な授業展開の在り方を探ったものである。実践授業の内容は、「角度を求める問題の作成」、「正の数・負の数の誤答分析」、「一次関数の問題作成」、「回転体の体積の追究」である。

中学校理科

佐賀県産淡水魚の教材化の試み
～分布・食性に関する研究～

淡水魚はその観察・飼育が一般的でないためか、これまで理科で身近な地域教材とされることがなかった。今回、県内の淡水魚の分布・食性に関する野外調査により、多くの資料を得ることができた。

淡水魚を利用することにより、身のまわりに注意が向き、自然に対する興味や関心がさらに高まることを考え教材化した。

中学校CAI

中学校におけるパソコンの教育利用について
～パソコン通信を用いた教育情報の蓄積・流通に関する研究～

パソコン通信を用いた教育情報の蓄積・流通に関し、まず教育情報の種類やデータ形式によりその蓄積・流通を検討した。次に国立教育研究所等での運用の実際を調査した。さらにワークショップを仮説し、実際にデータの蓄積等を行って得られた知見等を報告した。

高校社会

我が国における茶道文化の教材化と教授法の研究

本研究は、我が国の文化と伝統の特色という観点から主題を設定して、生徒の歴史的思考力の深化を試みた日本の中・近世文化史学習の実践的な研究である。具体的には、我が国の伝統文化の一つである茶道文化を教材化し、その主題を取り上げる方法論として「教材の構造化」を活用してみた。

高校数学

高等学校生徒の学力に関する研究（数学）
～数学学力テストを通して～

本研究委員会では、県下の先生方の協力を得て、参加希望の高等学校の生徒を対象に、数学Ⅰ（基本）、数学Ⅰ、代数幾何、基礎解析についての数学学力テストを実施し、学力に関する研究を行った。この紀要

は、その結果の集計、分析、考察を行い、まとめたものである。掲載資料は、検査問題、平均点、標準偏差などである。

高校理科生物

高校生物における陸水生態系の教材化の試み

郷土の自然を取り入れた陸水生態系の教材として、県内における淡水魚類の分布を調査した。その結果、河川の他、佐賀特有のクリークなどで豊富な魚種組成を確認したが、その中で、異種個体群との分布域をめぐる競争、希少種の減少、同種個体群内の群集構成などが明らかになった。そこで、これらをまとめて、教材化を試みた。

高校英語

A Device of English Teaching;
To Improve Listening Comprehension for the Development of Reading Comprehension

This report aims at helping students improve their skill in listening and reading. Listening comprehension has a relation to reading comprehension. When our teaching is reinforced, we can expect students to be motivated in reading and in listening to English.

高校CAI

高等学校におけるパソコンの教育利用について
～教育用ソフトウェアのデータベース化を図るシステムプログラムの開発(3)～

本報告は教育用ソフトウェアのデータベース化を図るためのインフラ整備の基礎として、通信ソフトウェアの要求定義と通信のハードウェアの実験を通して通信速度、安定性の検査及び現在一般に使用されている通信ソフトの使用の報告を行っている。

教育工学

教材としてのビデオ番組の制作
～小学校理科～

小学校3年理科のA区分（生物とその環境）の(2)「昆虫の育ち方」では、各教科書いろいろな昆虫を取り上げているがその成長過程や観察・飼育に触れている昆虫は特定されている。そこで、この特定された昆虫以外のチョウであるツマグロヒヨウモンを素材にして観察・飼育を促すことをねらったビデオ番組の制作を試みた。

長期研修生雑感 センター研修182日

一所懸命 ~県立学校理科~
盲学校 朝日佐代子

多くの先生方と出会い、たくさんのこと
を学ばせてもらっている。時のたつのは早く、
あと二か月余りしかない。「今、私は
一所懸命がんばっています。」と、自信を
もって言えるようがんばりたい。

初心にかえる ~中学校CAI~
第五中学校 井手 博司

教職十年目を迎え、長期研修の機会を得た。
研修を積むにしたがって、これまで自分は
どれだけ努力しただろうかと反省する。
大学の教科書やノートをひっぱりだし、
これから教職生活に向けて初心にかえる。

牛歩でも ~中学校国語~
大和中学校 井手ゆづら

生徒と同じ立場になって四か月。時間が
矢のように過ぎ、あせりばかりが増す。不安を抱きながらも、目標に向かって進む今
の心境を大切にしたい。周りの方々の励ましに感謝しつつ歩み続けていこうと思う。

現状は ~情報処理(商業)~
唐津商業高等学校 江副 文敏

センターでの生活も四か月が過ぎた。研
修生の殆どが最終段階へ進むなかで、私は
「課題作成」のため、画面と睨めっこ。

計画どおりに進まない現状に、苛立ち・
焦りの毎日で、時間との戦いである。

研修雑感 ~高等学校理科~
三養基高等学校 北島 勝則

研修にきて早四か月。ふと気づくとまわりの木々も落葉している。知らないことの多さを痛感している今日このごろである。

多くの先生方との出会いや、得た知識を
大切にし今後の職務や研修に励みたい。

試行錯誤の連続 ~中学校CAI~
鍋島中学校 斎藤 孝夫

長期研修で、半年頑張ればソフトウェア
が自由にできるという甘い考えが吹き飛ば
された。初步からの研究のため、なかなか
進歩がない。苦労した分役立つことを信じ
今後の教育活動に生かして行きたい。

科学的に考えるとは ~小学校理科~
塩田小学校 霜村 満

科学的に考えるということで研究を続けた。
それは非常に厳しいものであった。

しかし、その厳しさそのものが楽しさに
通じる、と自分に言いきかせた。安易に考
えると必ずまちがえることを知った。

心に尋ねる ~高等学校教育相談~
伊万里農林高等学校 白武 博義

私は、相談という家の門から玄関までを
歩く間、窓から家中を覗いたり家を囲む庭
について色々と思い悩んでいた。だが今は
玄関の前に立ち、自分の心を素直に受け止
めて、家中の声を聴きたいと思っている。

有意義な時間 ~情報処理(商業)~
嬉野商業高等学校 進藤 金道

半年間という期間をいただき、「有意義
な研修」を積まなければ、と思っていたが、
終わりが近づくにつれ、自分の研修が果たして
学校で活かせるか不安である。不安を少なく
するために、また研修に励む。

寂しさとゆとり ~小学校教育相談~
神野小学校 鈴山 幸代

子どもたちの歓声から離れて研修をする
寂しさとゆとりと深い意義を感じる日々で
ある。子ども理解の前に自己理解。今まで
気付かなかった自分に出会う怖さと喜び。

言葉では表現できない貴重な体験である。

自分との出会い ~小学校教育相談~
多良小学校 高上 恵子

様々な出会いを通して、私は人とのかか
わりの中で出てくる自分自身の姿や癖に気づかせ
てもらっている。自己新発見、これからどんな自分と
出会えるかとても楽しみだ。二か月後、一皮むけたらいいと思う。

オリジナル ~小学校CAI~
橋小学校 竹内 智道

オリジナルという言葉。長期研修に来て
この言葉の重みをひしひしと感じた。先行
研究物や文献等を読んで、出てきた考えは
本当にオリジナルなのかと自分に問う。今
では簡単に使えない言葉である。

研修雑感 ~小学校社会~
北茂安小学校 富永 幸広

学校を離れて、はや四か月が過ぎようとして
いる。厳しい研修ではあるが、多くの先生方と
出会い、はげましに支えられてここまで来ること
ができた。この貴重な経験を糧として、これからも励みたい。

一つの芽 ~小学校特別活動~
本庄小学校 南里 信幸

何もない瓦礫の荒野を耕し、そこに五つの種をまいた。毎日水をかけているとやがて
小さな芽が顔を出した。ある時旅人が通り「一つだけ育てなさい。大きくなるよ」と助言をくれた。
一つの芽大きく育て！

虚偽の一心 ~小学校道徳~
三瀬小学校 尼寺 広樹

子供の心を育てたいと思い、道徳を長研
に選んだ私だが、すばらしい先生方、文献
資料や実践との出会いで私自身の心が洗わ
れ、成長させられた。自分が変わらなければ、
子供は変わらない。前進あるのみ。

邂逅の喜び ~中学校数学~
大浦中学校 廣田弘一郎

研修をはじめてもう四か月。校種や領域、
そして地域を越えた多くの仲間達との出
会い。日々の研修の中で、彼らとふれあい、
語り合い、なんと得ることが多かったこと
か。この喜びを胸に今後も研鑽に励みたい。

道の途中で ~中学校CAI~
山代中学校 古川 敦秀

目標に至る道程は震の中で、研修を進め
るうちにさまざまな道が見えてくる。同
時に道の周囲や障害物が見えはじめ、自
分の力のなさをおもい知る。更なる研修と課題
発見の日々。道は始まったばかりである。

研修雑感 ~中学校理科~
川副中学校 古川 昌高

研修を始めたころ紅葉しかけた窓の外の木々は、すっかり落葉し、葉は地面に厚く
積み重なっている。日々の研修も一日一日
と積み重なっていき、新たな研修の芽ばえ
のための肥やしとなることを願っている。

出会って出合う ~小学校理科~
山代西小学校 前田 弥三

多くの人のとの出会いが、いろんなことを
教えてくれる。それが、自然の事象を観る
目を変える。そして、自分が変化していくの
を感じる。物事を多面的に観る目・多様な
考え方を知る。出会いが「出合う」を教える。

算数のよさ ~小学校算数~
平原小学校 増本 博宣

算数の良さ、善さ、佳さ、そしてよさ。
すべてはここから始まった。本を読みあさ
り、手だてを模索し、指導を求め、実践に
悩み、そして、子ども達に助けられた。算
数のよさ…少し見えた気がする。

初心にかえる ~高等学校国語~
唐津工業高等学校 宮崎 久子

学校現場を離れ、初心にかえって勉強する
機会に恵まれ、長研の先生方とのすばらしい
出会いがあった。だが、目標は遠く、
日々三時間の通勤距離のみが着実に積み重
なり「日暮れて道遠し」を実感している。

いつも前向きに ~小学校算数~
牟田小学校 牟田 誠

もう四か月。研修の難しさ、厳しさ、自
分の力のなさを痛切に感じる。だが、学校
現場では体験できないたくさんの先生方との
ふれあい、この貴重な体験を忘れずに前
向きの姿勢でがんばっていこうと思う。

教育相談 Q & A

再登校へ向けて!!

~家庭訪問で 子どもにどう関わるか?~

3月の忘れ雪かなと思う、小雪の舞う日に1通の手紙がきました。それは3年前に相談にみえたお母さんからの手紙でした。

『前略、先生がたにはごぶさた致しております。おかげさまで息子は無事に卒業し、就職も決まり、先日、早々と寮に入ると言って、一人で上京していきました。…(中略)…あの頃は、こんな形で親元を離れていくなんて夢にも思っていませんでした。これも、担任の先生と先生がたのおかげだと思います。特に、担任のM先生は熱心に幾度となく家庭訪問をして息子の力になっていただきました。M先生は別の学校へ移られており、連絡先が分かりませんので、よろしくお伝えください。』

S君は、まだ中学生のあどけなさが残っている工業高校の1年生でした。初回面接で、「先生から行きなさいと言われて来た。もう来たくない。」と、この1回だけの来所でした。一方、お母さんは、5ヶ月間継続して相談にみました。

担任のM先生は、この学校に来て自分の専門教科が教えられるとはりきっている若い先生でした。しかし、登校拒否の生徒に出会ったのは初めてで、どうにかしたいという思いはあるが、どう関わったらよいか分からず、と素直な自分の気持ちを打ち明けられました。

S君が学校へ行かなくなったのは、9月9日からでした。その日の朝、急に学校に行きたくないと言って部屋に籠り、何を言っても返事をせず、理由を色々と問い合わせても首を横に振るだけ、ということでした。

S君は、昼間はテレビを見たり、ファミ

コンをやったり、マンガの本を見ているということでした。M先生には、S君の様子を見て、結果を恐れずにとにかく動いてみてください、とお願いをしました。先生は家庭訪問をして、学校や勉強のことには触れず本人と気楽な話をしたり、一緒にファミコンで遊んだりされたようです。

S君が先生を受け入れ、心を開くようになった時点で、こんどは積極的に関わっていただきました。高校は小・中学校と違って、欠席日数が1/3の約70日を越えると進級できなくなること、欠課時数も1/3を越えるとその教科の単位が取れないこと、1教科でも単位が取れないとその他の単位も認められないという、高校の制度も丁寧に伝えていただきました。

11月になり、S君は友だちに電話をしたり、友だちと一緒に遊びに行くようになりました。このような動ける状態を見極めて、先生が、あと数日で欠席日数が1/3を越えてしまうことを告げられ、S君にどうしたいのか尋ねられました。その後、自分の部屋で考え込んでいるS君の姿が、お母さんの面接で話されました。その日の翌朝、11月29日からS君は突然登校を始めました。その後は3日間断続的に休んだものの、学年末までがんばりました。その背景には、いつ再登校してきてもいいような受け入れ体制を整えていた、担任の先生の配慮があったことは言うまでもないことです。

「あの日、S君に現実を認識させるためのつきつけをしたことは、私にとっても、つらいことでした。」と話されたM先生の顔が浮かびました。

回 覧									

発行 佐賀県教育センター
〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
(TEL) 0952-62-5211
(FAX) 0952-62-6404